



第106回 学長定例記者会見

日時：平成31年1月25日（金）10：30～11：00

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟2階 会議室

※テレビ会議システムにより、記者会見の様様を同時配信

受信場所：東千田キャンパス 未来創生センター4階 ミーティングルーム4-1

※Ustream および YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 広島大学と公益財団法人広島県サッカー協会が共同で大学のグラウンドを人工芝に整備します
2. 広島大学キャンパス全面禁煙について
3. 広島大学が2月1日に学内共同教育研究施設を設置します
 - 3-1. 広島大学デジタルものづくり教育研究センターの設置について
 - 3-2. 広島大学ゲノム編集イノベーションセンターの設置について
4. 平成30年度広島大学 D P（Distinguished Professor）・D R（Distinguished Researcher）を認定しました

【お知らせ】

1. 広島大学から世界へ ～世界のトップ研究者に聞く 第4弾～ においてノーベル物理学賞受賞者 天野 浩 博士による講演会を開催します
2. 第3回広島大学SDGsシンポジウムを開催します
3. 第4回ピース・レクチャー・マラソンを開催します
4. 平成30年度 定年退職教員の退職記念講演等について
5. 「放射線災害・医科学研究拠点」が県民公開大学を福島市で開催します

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時：平成31年2月下旬

場所：広島大学 霞キャンパス



平成 31 年 1 月 25 日

広島大学と公益財団法人広島県サッカー協会が共同で
大学のグラウンドを人工芝に整備します

広島大学と広島県サッカー協会は、広島大学南グラウンド（サッカー場）を現在の土グラウンドから人工芝に整備します。

大学側の学生の教育環境の整備、協会側の県内の人工芝グラウンド不足への対応といった双方の考えが一致したことによるもので、本月より工事を開始しております。3月末の完成後、4月上旬に完成披露を予定しており、グラウンドの名称を別途命名する予定です。

利用に関しては、広島大学における授業・課外活動、広島県サッカー協会主催の大会等とし、相互の連携による更なる教育の推進を視野に入れています。

（完成イメージ図）



【お問い合わせ先】

広島大学教育室

教育部 学生生活支援グループ 森川 泰彦

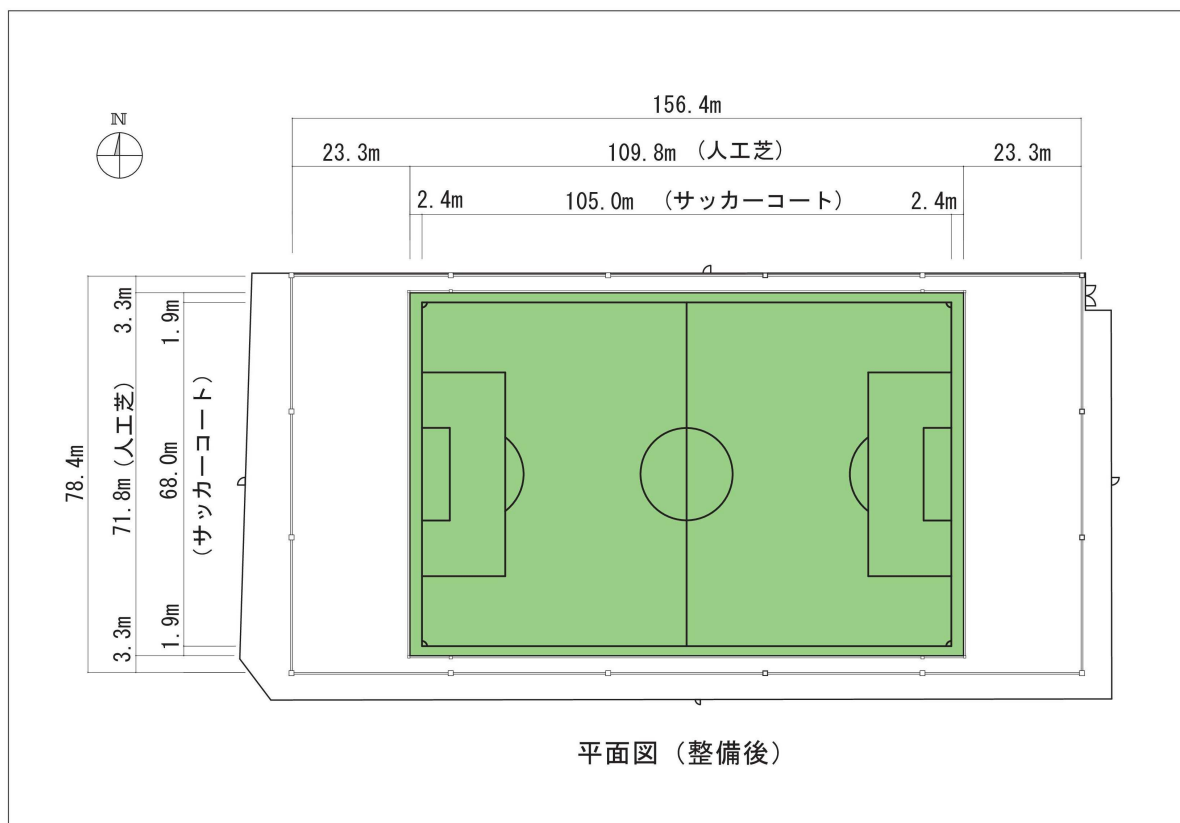
TEL：082-424-6141 FAX：082-424-6159

公益財団法人

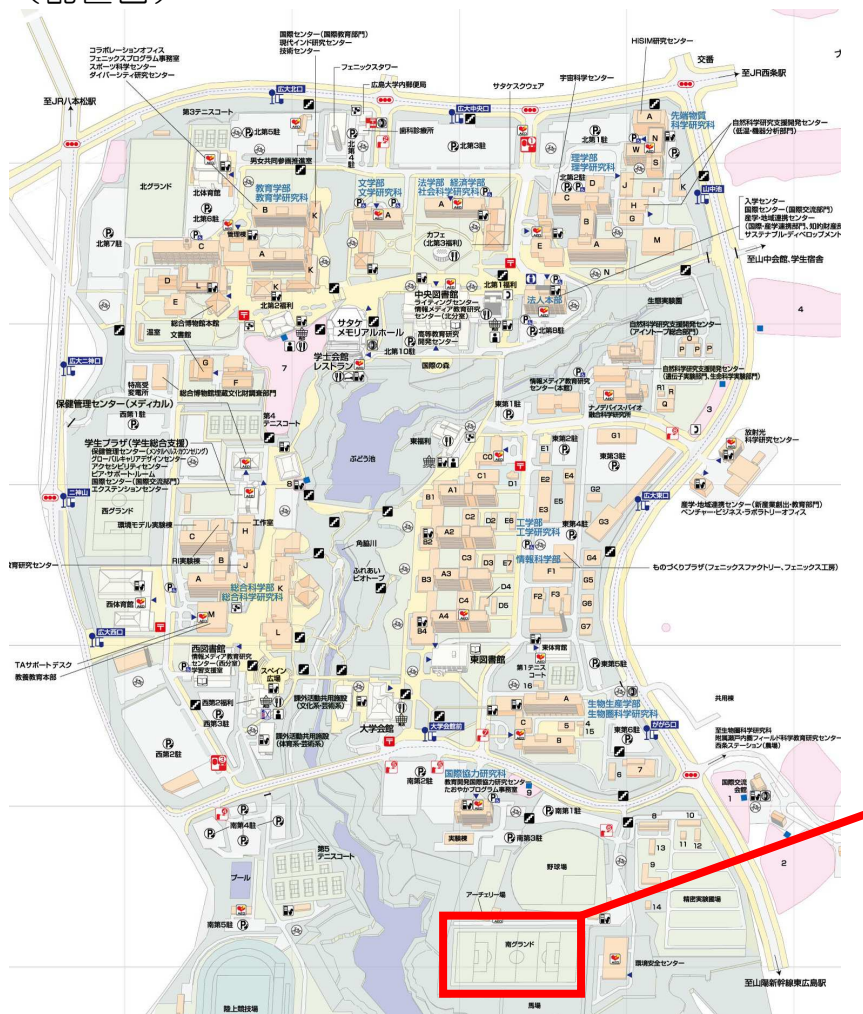
広島県サッカー協会 専務理事 宗政 潤一郎

TEL：082-212-3851 FAX：082-212-3852

(完成図面)



(配置図)



南グラウンド (サッカー場)



平成 31 年 1 月 25 日

広島大学キャンパス全面禁煙について

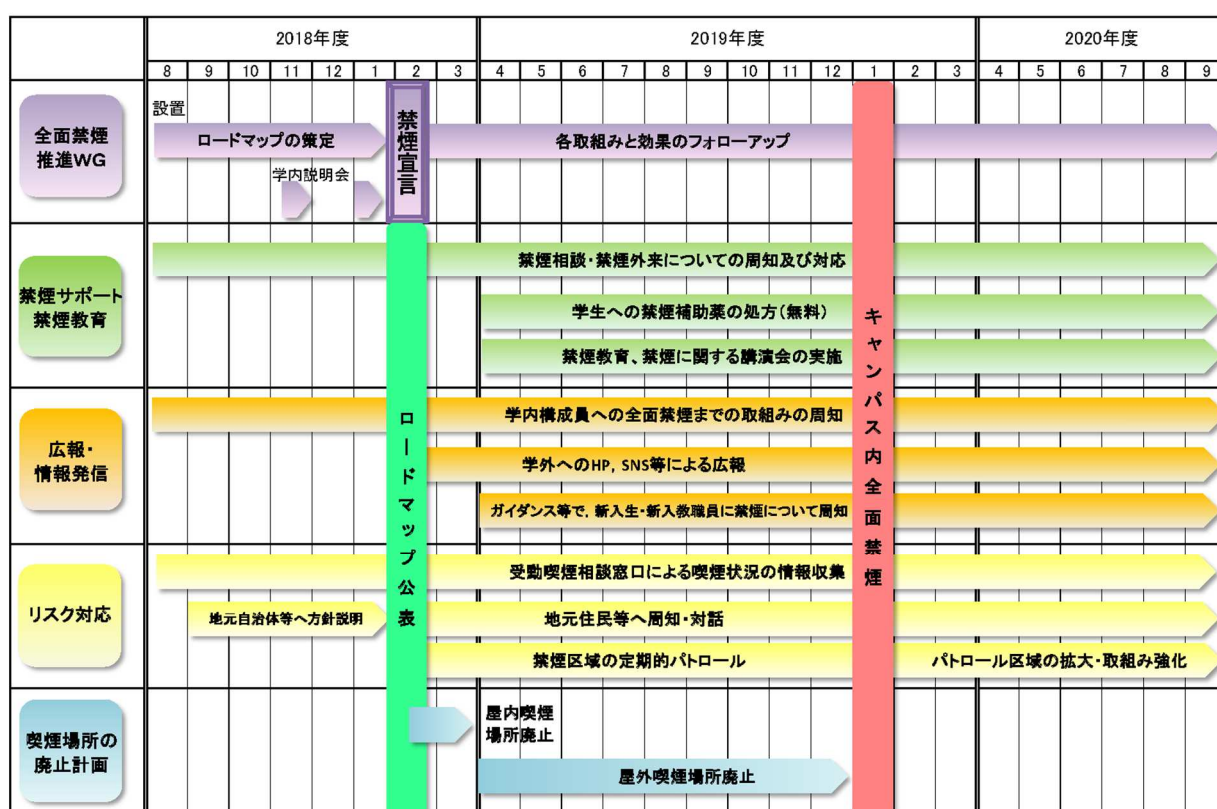
広島大学は、受動喫煙防止対策の徹底及び禁煙教育の推進等の観点に立ち、2020年1月からキャンパス内を全面禁煙することとし、この度「広島大学キャンパス全面禁煙宣言」をいたします。また、実施までの間に取り組むべきこと等を整理した「ロードマップ」を決定しました。

具体的には、新入生に対する禁煙教育の強化、学生に対する禁煙補助薬の無料処方などの禁煙支援、教職員に対する禁煙相談・禁煙外来の紹介を行うとともに、学内の喫煙場所を今年中に全廃します。

今後、広島大学構成員だけでなく、本学来訪者、地域の方々その他大学関係者のご協力をいただきながら、「たばこの煙のない環境構築」を実現していきます。

【お問い合わせ先】

広島大学 財務・総務室 総務グループ 担当：中山
TEL: 082-424-6129
E-mail: risk-anzen@office.hiroshima-u.ac.jp





平成 31 年 1 月 25 日

広島大学デジタルものづくり教育研究センターを設置について

広島大学は、2 月 1 日、広島中央サイエンスパーク内の広島県の施設であるひろしま産学共同研究拠点に「デジタルものづくり教育研究センター」を設置します。

なお、センター長として、日本の高分子科学研究の権威者である中條善樹氏（京都大学名誉教授）をお迎えし、モデルベースによる材料研究や制御・生産プロセスのスマート化などに係る研究開発と人材育成を幅広く推進するとともに、地域レベルで、イノベーションを実現していく本格的な産学連携システムの構築をめざします。

広島大学では、これまで、世界トップレベルのモデルベース開発（MBD）技術等を有するマツダ㈱と次世代自動車技術共同研究講座を平成 27 年から設置しているほか、平成 30 年からは、コベルコ建機㈱とコベルコ建機夢源力共創研究所を運営するなど産学連携を推進してきました。

また、本学として特徴のある研究を重点的に推進する研究拠点認定制度に基づき、先端センシング技術・実装研究拠点である社会実装志向型 HiSENS 拠点（平成 27 年認定）や、材料をモデルベースで研究する MBR 拠点（平成 30 年認定）などにより、ものづくりのデジタル化に関連する研究開発・人材育成を推進してきました。

こうした、これまでの実績を踏まえ、広島県、本学、マツダ㈱など、地域の産学官が一体となって策定した「ひろしまものづくりデジタルイノベーション創出プログラム」が、平成 30 年度に創設された、内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業に採択され、同プログラムに基づき、産学官連携により、地域レベルで、デジタルイノベーションを実現していくための幅広い事業を推進することとしました。

本センターは、同プログラムの中核事業として実施するものであり、ものづくりデジタルイノベーションに係る研究開発と人材育成を推進していくために「材料モデルベースリサーチ部門」と「データ駆動型スマートシステム部門」の 2 つの部門を設置するとともに、国内外からトップレベルの研究者を招へいするなど、喫緊の課題となっているものづくりのデジタル化へ対応して参ります。

【お問い合わせ先】

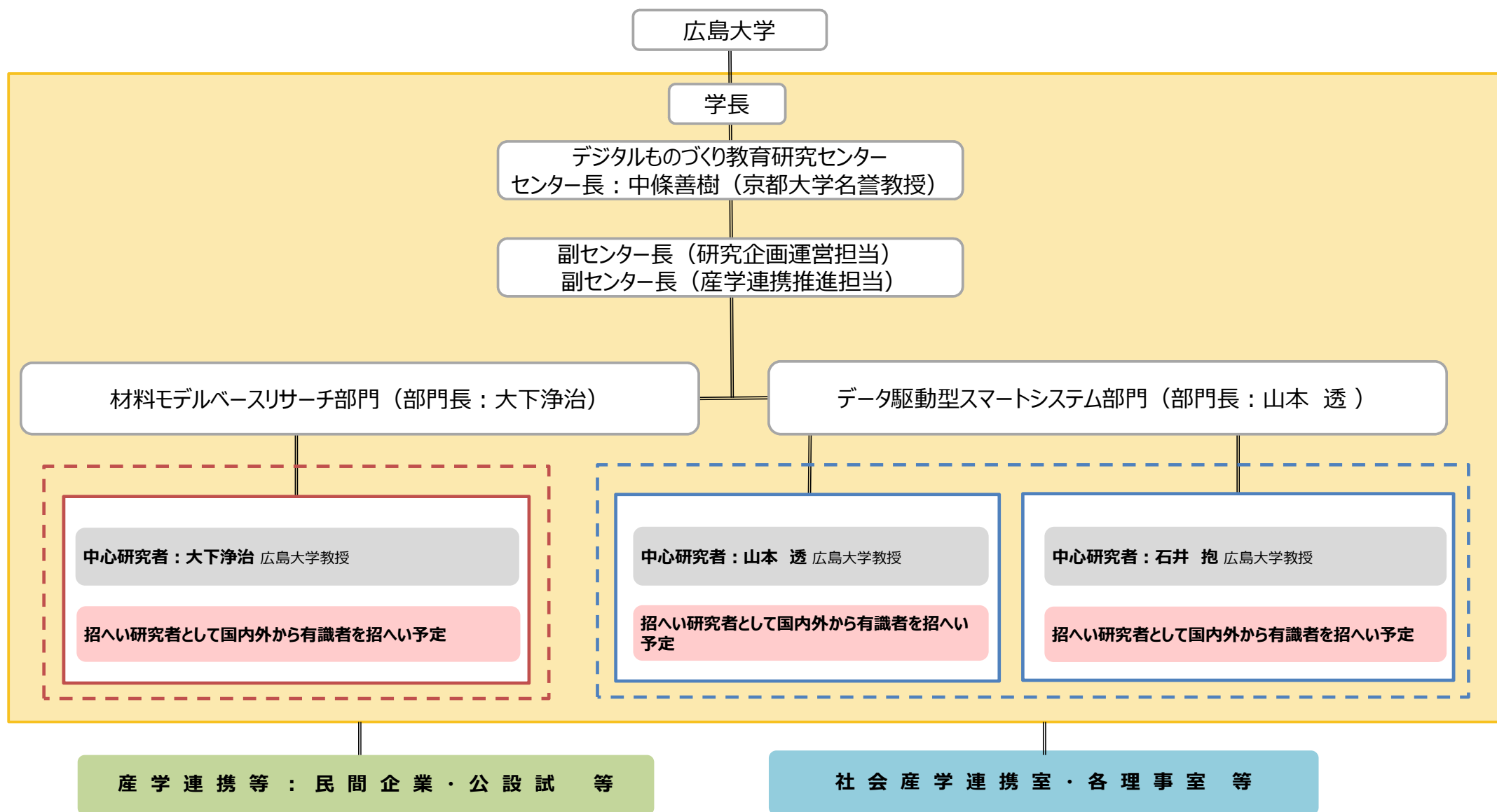
広島大学社会産学連携室

社会産学連携部 主幹 串岡 勝明

TEL:082-424-4310 FAX:082-424-6189

デジタルものづくり教育研究センターについて

2019.1.25





平成 31 年 1 月 25 日

広島大学ゲノム編集イノベーションセンターを設置について

広島大学は、2 月 1 日、広島中央サイエンスパーク内の広島県の施設である広島産学共同研究拠点に「ゲノム編集イノベーションセンター」を設置します。

近年、目的の遺伝子を狙って改変する技術として、人工 DNA 切断酵素を基盤とする“ゲノム編集 (Genome Editing)”が注目されています。本学では、2013 年から文部科学省の運営費交付金プロジェクトとして「世界をリードする人工ヌクレアーゼ開発拠点」が採択され、山本 卓教授をリーダーとして新しいゲノム編集ツールの開発を行ってきました。2014 年からは、広島大学の自立型研究拠点「ゲノム編集研究拠点」として、独自の遺伝子ノックイン技術などの成果を継続して発表しています。2016 年からは文部科学省・産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA)「ゲノム編集による革新的な有用細胞・動物作製技術の創出」がスタートし、多くの企業・大学等と産学連携を進めています。

さらに、本年度は、文部科学省・卓越大学院プログラム「ゲノム編集先端人材育成プログラム」が採択されるなど、本学は国内のゲノム編集分野を牽引し、高い評価を得ています。

国内の研究においてもゲノム編集コンソーシアム (本学が取りまとめ機関) を前身として、2016 年には日本ゲノム編集学会 (学会長: 山本卓) が設立され、産業界でのゲノム編集技術の適用や、ゲノムを改変した生物に関する規制及び倫理に関する基準構築等を進める中心的な役割を担っているところです。

こうした、これまでの実績を踏まえ、ゲノム編集先端人材の育成、ゲノム編集国産技術及び遺伝子改変新手法の開発、多くの企業との共同研究によるイノベーションや地域産業創出などに取り組み、ゲノム編集イノベーションセンターを国内のゲノム編集分野における教育、研究及び産学連携の中心拠点として発展させ、地域創生に貢献していきます。

【お問い合わせ先】

広島大学学術室 研究企画室 室長 小左古 学
TEL:082-424-5860 FAX:082-424-4592

広島大学ゲノム編集イノベーションセンター

ゲノム編集イノベーションセンター長



【研究開発・人材育成・産学連携】

基礎技術開発部門

ゲノム編集ツール開発、遺伝子ノックイン技術開発等

モデル細胞・動物開発部門

基礎研究から応用研究でのモデル細胞・動物作出

教育部門

ゲノム編集講習、卓越大学院の教育等

産学連携部門

産学連携研究、OPERAでの研究連携

統合生命科学研究科

医系科学研究科

理系・工学系研究科

異分野融合研究
両生類研究センター
臨海実験研究拠点 など

広島大学と教育研究機関・企業・海外機関との連携

研究連携

- ・基礎生物學研究所
- ・理化學研究所
- ・大阪大学 ・徳島大学
- ・京都大学iPS細胞研 など

産学連携

食品企業、製造企業、化学企業、化粧品企業など、OPERA
参画企業及び関連企業

国際連携

- ・米国ハーバード大学
- ・シンガポールDuke-NUS
- ・英国ガードン研究所
- ・米国NIH など



平成 31 年 1 月 25 日

平成 30 年度 広島大学 DP (Distinguished Professor)・DR
(Distinguished Researcher) を認定しました

広島大学では、「特に優れた研究を行う教授職 (DP: Distinguished Professor)」および「特に優れた研究を行う若手教員 (DR: Distinguished Researcher)」の認定制度により、重点的に研究支援を行っています。

平成 30 年度は、DP 4 人・DR 8 名を認定しました。(別紙参照)

DP・DR の認定は、発表論文のインパクトファクター、外部資金獲得状況、特に優れた業績を上げた研究者に与えられる学術賞受賞歴などのエビデンス(客観的証拠)など分野特性に応じて多面的な指標により選定しています。

DP・DR に認定されると、特に DR に対して、サバティカル制度の積極的運用を通じて海外での研究活動を支援するなど、研究者として研究に専念できる環境下で自立した研究活動を展開するための支援を行います。

今回新たに認定した DP・DR の任期は、DP が 10 年間、DR が 3 年間です。

なお、認定式を平成 31 年 1 月 28 日(月) 16 時から広島大学中央図書館ライブラリーホールにて執り行う予定。

【制度の趣旨】

広島大学の研究力強化にあたっては、研究拠点形成と共に個々の研究者による活発な活動が不可欠であり、優れた人材の確保と的確な研究支援を組織的に機能させる必要があります。この目的の達成のため、重点的に取り組むべき研究を行う特に優れた教授職を DP として、また、将来 DP として活躍しうる若手人材が研究に専念できる環境を創出するため、特に優れた若手教員を DR として認定する制度を、平成 24 年度に創設。

【お問い合わせ先】

学術室 研究企画室
室長 小左古 学

TEL:082-424-5860 FAX:082-424-4592

平成30年度認定 DP及びDR一覧

～DP : Distinguished Professor (特に優れた研究を行う教授職) 4名～



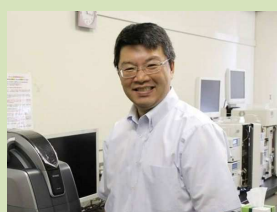
荒見 泰史 教授 (53 歳) 【 大学院総合科学研究科 中国文学 】

敦煌学^{とんこう}研究に関する世界的な研究者。膨大な漢籍資料、各地に点在する石碑資料及び日本の古鈔^{こしやうほん}本と儀礼などを対比させた敦煌文献の解説と、そこから俯瞰的に見た中国社会の読み解きなど、国内外で高く評価されている。敦煌学国際連絡委員会・幹事。



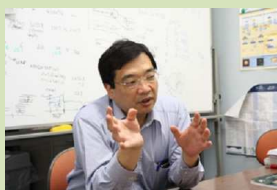
小島 由継 教授 (62 歳) 【 自然科学研究支援開発センター 水素機能材料 】

アンモニアを水素貯蔵材料とする革新的研究の第一人者。アンモニアから燃料電池自動車用高純度水素燃料を高効率で製造するための要素技術やアンモニアを安全・安心に利用するための吸蔵材料を開発するなど、社会に大きなインパクトを与えている。



浮穴 和義 教授 (47 歳) 【 大学院総合科学研究科 基礎生物学 】

本能行動の発現メカニズムに関する総合科学研究を推進し、約 10 年ぶりとなる新規脳内因子を発見。また、その生理機能が食欲調節やエネルギー代謝調節であることを見出すなど、生物系分野において、国内外で高く評価されている。



川上 秀史 教授 (59 歳) 【 原爆放射線医科学研究所 分子疫学研究 】

神経変性疾患の原因遺伝子の解明に尽力し、特に筋萎縮性側索硬化症(ALS)の原因遺伝子 optineurin の同定やパーキンソン病の感受性遺伝子の同定など、社会に大きな影響を与える優れた成果が国内外から高く評価されている。

～DR : Distinguished Researcher (特に優れた研究を行う若手教員) 8名～

角谷 快彦
准教授 (42 歳)
社会科学部研究科

ミクロ経済学を応用した実証研究 (介護行動、医療行動等)

中尾 敬
准教授 (40 歳)
教育学部研究科

自発的脳活動と心的機能との関連の解明

宮岡 裕樹
准教授 (38 歳)
自然科学研究支援
開発センター

軽元素を用いた次世代エネルギー/物質変換技術の研究

金田一 智規
助教 (42 歳)
工学部研究科

細菌を利用した排水処理システムの開発

佐久間 哲史
講師 (34 歳)
理学部研究科

ゲノム編集に関する新技術を開発

水沼 正樹
准教授 (45 歳)
先端物質科学研究科

世界初、生物の細胞周期と寿命制御機構発見による日本学術振興会賞受賞

岡田 賢
講師 (45 歳)
医歯薬保健学研究科

原発性免疫不全症の発症分子基盤の解明、および、診断・治療法の開発

宮本 達雄
准教授 (40 歳)
原爆放射線医科学研究所

染色体不安定性遺伝病の分子細胞生物学研究

平成 2 7 年度認定 D P 一覧

DP : Distinguished Professor (特に優れた研究を行う教授職)

配属	職名	氏名
大学院先端物質科学研究科	特任教授	高畠 敏郎
大学院理学研究科	教授	深澤 泰司
学術室／大学院理学研究科	理事／教授	山本 陽介
大学院理学研究科	教授	井上 克也
大学院工学研究科	教授	都留 稔了
大学院医歯薬保健学研究科 (医)	教授	大段 秀樹
大学院医歯薬保健学研究科 (医)	教授	今泉 和則
脳・こころ・感性科学研究センター	特任教授	山脇 成人

計 8 名

平成 2 5 年度認定 D P 一覧

DP : Distinguished Professor (特に優れた研究を行う教授職)

配属	職名	氏名
大学院工学研究科	教授	大下 浄治
医療政策室	特任教授	神谷 研二
大学院先端物質科学研究科	教授	黒田 章夫
大学院理学研究科	教授	杉立 徹
大学院医歯薬保健学研究科 (医)	教授	茶山 一彰
HiSIM 研究センター	特任教授	三浦 道子
大学院医歯薬保健学研究科 (医)	教授	安井 弥

計 7 名



平成 31 年 1 月 25 日

広島大学から世界へ～世界のトップ研究者に聞く第 4 弾～において
ノーベル物理学賞受賞者 天野 浩 博士による講演会を開催

昨年 7 月の西日本豪雨災害による影響で開催延期となっていた、「広島大学から世界へ～世界のトップ研究者に聞く 第 4 弾～」を来年 3 月 11 日に開催します。

講演者には、名古屋大学未来材料・システム研究所の天野 浩博士をお迎えします。天野博士は、「明るく省エネルギーな白色光源を実現できる、効率の良い青色発光ダイオード」を発明した功績が認められ、赤崎 勇博士、中村 修二博士と共に 2014 年ノーベル物理学賞を受賞されました。

講演会では、「Transformative Electronics が築く未来社会」というタイトルで講演していただきます。

世界トップ研究者のお話を聞くことができるまたとない機会です。世界トップレベルの最先端研究を体感してください。

記

【日 時】2019 年 3 月 11 日（月）14:20～15:30（開場 13:30）

【場 所】広島大学サタケメモリアルホール（東広島キャンパス）

【講演者】天野 浩 博士

（名古屋大学未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター長・教授）

【対 象】どなたでも参加できます（高校生以上推奨）

※言語：日本語（英語への同時通訳あり）

【入 場】無料

【申 込】要事前申し込み

（申し込みフォーム）

<http://appform.hiroshima-u.ac.jp/20180718/>

【お問い合わせ先】

広島大学知のフォーラム事務局

学術室 研究企画室 打越

TEL:082-424-2056 FAX:082-424-4592

E-mail: hu20180718@hiroshima-u.ac.jp



広島大学から世界へ

～世界のトップ研究者に聞く 第4弾～

FROM HIROSHIMA UNIVERSITY TO THE WORLD - WISDOM FROM WORLD-RENOWNED RESEARCHERS 4TH -

演題

Transformative Electronics が築く 未来社会

天野 浩 博士 PROF. HIROSHI AMANO

名古屋大学未来材料・システム研究所
未来エレクトロニクス集積研究センター
センター長・教授

「高輝度、省エネルギーの白色光源を可能とした高効率青色発光ダイオード
の発明」にて赤崎勇博士、中村修二博士とともに 2014 年ノーベル物理学賞を受賞。



**参加費
無料**
要事前申込

会場

広島大学東広島キャンパス サタケメモリアルホール

日時

2019 年 3 月 11 日 (月) 14:20-15:50 [開場 13:30]



来たれ！未来の科学者たち

7 月の西日本豪雨災害により開催延期となっていた本フォーラムを 2019 年 3 月に開催することになりました。
第 4 弾となる今回は、2014 年に「高輝度、省エネルギーの白色光源を可能にした効率的な青色発光ダイオード
の発明」により、ノーベル物理学賞を受賞された、名古屋大学の天野浩博士をお招きします。
世界トップ研究者のお話を身近に聞ける、またとない機会です。未来の科学者を目指す皆さん、きっと新たな夢
と情熱が湧いてくるはずです。

また、本フォーラムの開催により地域の皆様に元気を与え、復興に少しでも貢献できれば幸いです。

広島大学長 越智 光夫



特設ウェブサイト

■どなたでもご参加いただけます。(高校生以上推奨)

■詳しい情報は随時ウェブサイトで更新いたします。

<http://appform.hiroshima-u.ac.jp/20180718/>

■事前予約はウェブサイトのお申し込みフォーム

または FAX (082-424-4592) から行えます。

■言語：日本語 (日本語から英語への同時通訳有)

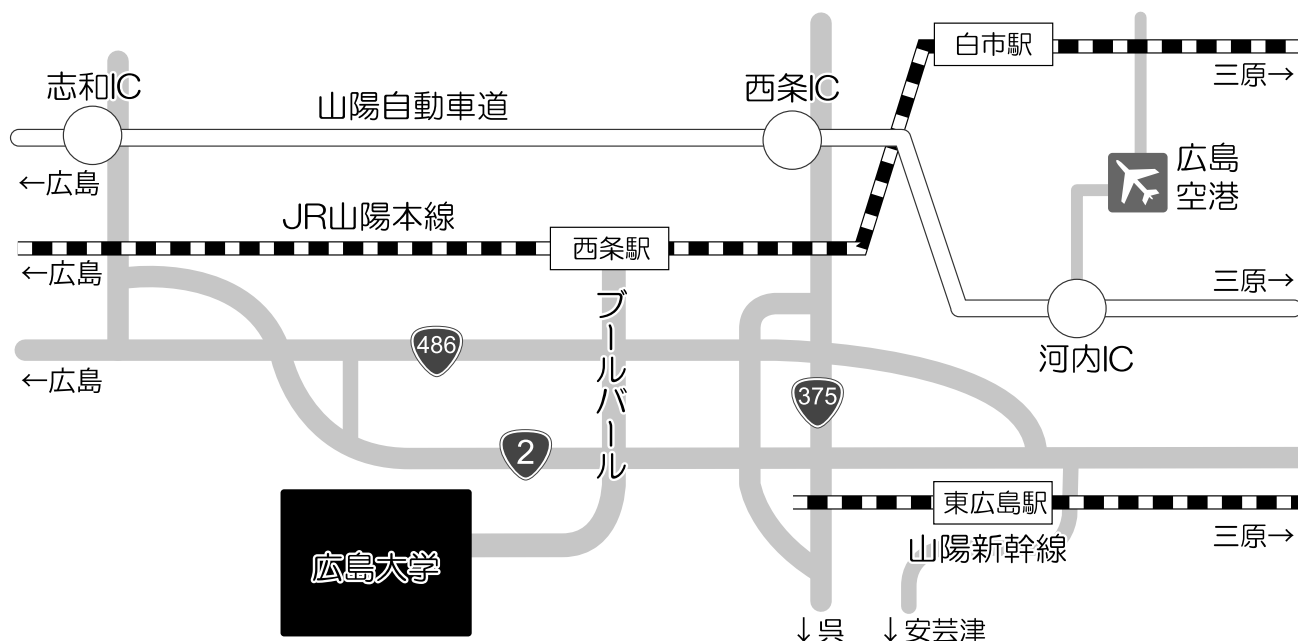
■お問い合わせ先

広島大学 学術室 研究企画室 (担当：打越)

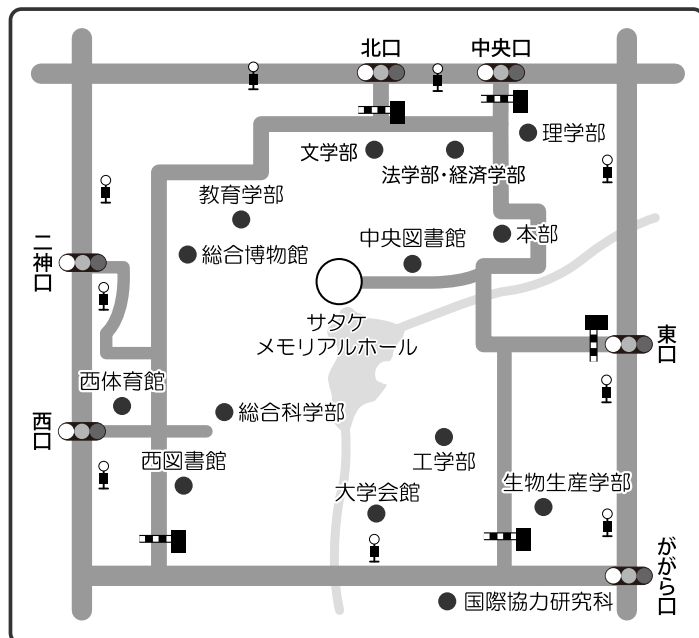
TEL : 082-424-2056 FAX : 082-424-4592

E-mail : hu20180718@hiroshima-u.ac.jp

アクセス



※ 広大中央口バス停から徒歩約5分です。



■飛行機をご利用の場合

- ・JR白市駅行きのバスに乗車（約15分：390円）
- ・JR白市駅で乗り換え（広島市内方面）
- ・JR西条駅で降車（約10分：200円）
- ・広島大学行きのバスに乗車
- ・広大中央口バス停で降車（約20分：290円）

■山陽新幹線をご利用の場合

- ・広島大学行きのバスに乗車
- ・広大中央口バス停で降車（約15分：380円）
- ※ タクシー 約15分：約2,000円

■広島市内からお越しの場合

- ・JR山陽本線をご利用の場合
 - JR西条駅（三原方面）で降車（約40分：580円）
 - 広島大学行きのバスに乗車
 - 広大中央口バス停で降車（約20分：290円）
- ・高速バスをご利用の場合
 - 高速バス グリーンフェニックス（広島大学行き）に乗車
 - 広大中央口バス停で降車（約60分：870円）

学内に駐車場を確保できないため、公共交通機関でお越しください。

広島大学知のフォーラム 広島大学から世界へ～世界のトップ研究者に聞く～ 申込書（FAX用）

ふりがな	性 別	お勤め先・所属団体名等
名 前	男 ・ 女	
連絡先（自宅・勤務先） いずれかに○をつけてください		
〒		
電話：（ ） — Eメール：		
同時通訳のイヤホンの要不要に○をつけてください 要 ・ 不要		



平成 31 年 1 月 25 日

第 3 回広島大学 SDGs シンポジウムを開催します

広島大学は、「第 3 回広島大学 SDGs シンポジウム：Innovation, Collaboration, and Transformation for Peace and Sustainability」を下記のとおり開催します。

本イベントでは、SDGs への貢献とパートナーシップの活用を目指した大学と企業とのコラボレーションに焦点をあてます。全体を三部構成とし、第一部では世界トップの有識者からそのコラボレーションに関する国内外の最新動向について、第二部では日本の先進事例について学びます。第三部では、本学の特色ある取組を紹介し、そのコラボレーターである企業側からコメントをいただきます。登壇者や本学教職員・学生のみならず、産学官連携推進研究協力会（通称：広島大学フェニックス協力会）・会員企業からの参加者らとともに、「パートナーシップで目標を達成しよう」と謳う Goal17 のリアルな問題と対策について議論し、大学と企業が相互に有意義なコラボレーションのあり方とは何かについて考えます。

記

【日 時】平成 31 年 2 月 11 日（祝・月）13:00-17:40

【場 所】広島大学霞キャンパス 広仁会館・大会議室
（〒734-8551 広島市南区霞 1 丁目 2 番 3 号）

【講演者】

- ポール・シュリバスタヴァ（ペンシルバニア州立大学サステナビリティ研究所：所長）
- 春日文子（フューチャー・アース国際事務局：日本ハブ事務局長）
- 谷口真人（総合地球環境学研究所・教授）
- 福井陽一（環境省地球環境局国際連携課・課長補佐）
- 民間企業から 5 人（MS&AD インシュアランスグループホールディングス、日本工営、住友商事、マツダ株式会社、株式会社イズミ）
- 本学の特色ある 4 つの研究拠点代表者 4 人

【参加申込】要 <<http://nerps.hiroshima-u.ac.jp/20190211/>>

【言 語】日本語・英語（同時通訳あり）

【対 象】一般

【主 催】広島大学 FE・SDGs 教育研究ネットワーク拠点

【共 催】広島大学たおやかで平和な共生社会創生プログラム

【お問い合わせ先】

広島大学 学術室 研究企画室 徳光
TEL:082-424-4397 FAX:082-424-4592



第3回 広島大学 S D G s シンポジウム

Innovation, Collaboration, and Transformation for Peace and Sustainability



2019 **2/11** MON

13:00 ▶ 17:40 [開場 12:20 -]

**広島大学霞キャンパス
広仁会館・大会議室**

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1 丁目 2-3

使用言語：英語及び日本語（同時通訳あり）

【主催】 広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点
【共催】 広島大学たおやかで平和な共生社会創生プログラム
【お問い合わせ先】 広島大学学術研究企画室
TEL：082-424-4397
E-mail：nerps@hiroshima-u.ac.jp



第 I 部 13:00 - 14:10

企業と大学の SDGs 連携に関する概要と最新動向

基調講演 企業と大学の SDGs 連携に関する概要と最新動向
ポール・シュリバスタヴァ（ペンシルベニア州立大学サステナビリティ研究所長）

特別講演 1 企業と大学の SDGs 連携：FE 日本事務所の取り組み
春日文子（フューチャー・アース国際事務局日本ハブ事務局長）

特別講演 2 企業と大学の SDGs 連携：FE アジア事務局の取り組み
谷口真人（総合地球環境学研究所 教授）

第 II 部 14:10 - 14:50

日本の先進的な連携事例

報告 1 日本の企業と大学の SDGs コラボレーション
福井陽一（環境省地球環境局国際連携課）

報告 2 保険業界の多様な取組と大学とのコラボレーション
浦嶋裕子（MS&AD インシュランスグループホールディングス総合企画部サステナビリティ推進室）

第 III 部 15:10 - 17:40

広島大学の特色ある取組と連携の可能性

報告 1 防災・減災研究センターの取組
土田孝（広島大学防災・減災研究センター長）× 鈴木滋（日本工営株式会社）

報告 2 条件不利地域のモビリティ革命
藤原章正（広島大学大学院国際協力研究科 教授）× 福山雅夫（住友商事株式会社）

報告 3 感性イノベーション研究
山脇成人（広島大学脳・こころ・感性科学研究センター長）× 農沢隆秀（マツダ株式会社）

報告 4 ダイバーシティ&インクルージョン研究
坂田桐子（広島大学大学院総合科学研究科 教授）× 串田充（株式会社イズミ）

事前登録はこちら

<https://appform.hiroshima-u.ac.jp/20190211/>



NERPS は、SDGs 達成のための教育・研究ネットワーク拠点です。





平成 31 年 1 月 25 日

第 4 回ピース・レクチャー・マラソンを開催します

広島大学社会科学部研究科支援室において、第 4 回ピース・レクチャー・マラソンを以下のとおり開催しますのでご案内いたします。

本講演では、2018 年 9 月に、駐日欧州連合代表部代表及び次期駐日欧州連合大使として着任し、同年 11 月、駐日欧州連合特命全権大使に就任したパトリシア・フロア氏により、「The EU as a peace project (和訳追記予定)」と題して講演をいたします。

ピース・レクチャー・マラソンは、原子爆弾によって破壊された広島が緑豊かな国際都市として発展する中、苦難の歴史を忘れず平和の大切さを語り継いでいくために、各国政府代表者や在京大使の方々に平和をテーマにご講演いただくものです。みなさま、ふるってご参加ください。

記

日 時：2019 年 1 月 28 日（月）10:00-11:00

場 所：広島大学法学部・経済学部講義棟 B255 講義室
〒739-8525 東広島市鏡山 1-2-1

タイトル：「The EU as a peace project (和訳)」

言 語：日本語・英語（同時通訳有）

対 象：大学教職員、学生、一般（どなたでも）

入 場：無料

定 員：360 名（事前申込不要）

主 催：広島大学社会科学部研究科支援室

【お問い合わせ先】

広島大学社会科学部研究科支援室 中本

TEL：082-424-6753 FAX：082-424-7212

Mail：syakai-soumu-kaikei@office.



第4回 ピース・レクチャー・マラソン



駐日欧州連合特命全権大使 パトリシア・フロア氏

“The EU as a Peace Project”

広島大学は、平和を希求してチャレンジする国際的教養人を輩出し、多様性を育む自由で平和な国際社会を築く役割を果たします。ピース・レクチャー・マラソンは、原子爆弾によって破壊された広島が緑豊かな国際都市として発展する中、苦難の歴史を忘れず平和の大切さを語り継いでいくために、各国政府代表者や在京大使の方々に平和をテーマにご講演いただくものです。



パトリシア・フロア
駐日欧州連合特命全権大使

越智 光夫
広島大学長



1961年ドイツ生まれ。ハーバード大学ケネディ行政学院で行政学修士号取得。エアランゲン・ニュルンベルク大学で東欧史、経済、哲学を学び博士号を取得。ジャーナリストとして活動後、学術研究を経て、1992年ドイツ外務省に入省。国連ドイツ政府代表部勤務中には、国連女性の地位委員会議長を務める。中央アジア担当欧州連合特別代表、ドイツ外務省国際秩序・国連・軍備管理総局長兼軍縮・軍備管理担当政府代表を歴任。2018年11月に駐日欧州連合特命全権大使に就任。

2019年1月28日(月) 10:00-11:00

場 所：法学部・経済学部講義棟
B255講義室

使用言語：日本語・英語（同時通訳）

入 場：無料

申 込：不要



主催：広島大学

問合せ先：

広島大学社会科学部支援室

TEL: 082-424-6753 / FAX: 082-424-7212

E-mail: syakai-soumu-kaikai@office.hiroshima-u.ac.jp



平成 31 年 1 月 25 日

平成 30 年度 定年退職教員の退職記念講演等について

平成 31 年 3 月 31 日付けで広島大学を定年退職する教員の一覧(退職記念講演(講義)一覧)を別紙のとおりお知らせいたします。

なお、本件は広島大学公式ウェブサイトにも掲載し、現在最終講義が未定の教員についても、決まり次第追記していきます。

※定年退職教員の略歴につきましては、広島大学ウェブサイト>研究>「研究者総覧」をご参照ください。

<広島大学公式ウェブサイト・掲載ページ URL>
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/48980>

◆定年退職予定教員(大学教員のみ) 37 名

【お問い合わせ先】

広島大学財務・総務室広報部広報グループ
TEL: 082-424-3701
E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

所 属	職 名	氏 名	講演(講義)日時	専 門	会 場	講演(講義)題目
総合科学研究科	教授	SKAER PETER MACKALL (スケーアー ピーター マッコール)	なし	生成音韻論およびブレインイン グリッシュ		
	教授	田中 暁	なし	ドイツ文学・ドイツ文化論		
文学研究科	教授	勝部 真人	2月5日(火) 14:35～16:05	日本史学	文学研究科B204リテラ	歴史学に明日はあるか(なければ困るんだけど…)
	教授	河西 英通	3月15日(金) 14:35～	歴史学	文学研究科B251	「私が歩いてきた道、歩く道—極道としての 歴史学—」
教育学研究科	教授	植田 敦三	なし	算数科教育学		
	教授	坂越 正樹	2月20日(水) 13:00～	教育学	学生会館レセプションホール	教育的関係の個人史
	教授	林 孝	3月16日(土) 10:30～	教職開発(学校経営学)	教育学研究科L205	「人を人とする組織」とわたしの学校経営観
	教授	横田 明子	なし	生活経営学		
社会科学研究科	教授	寺本 康俊	未定			
理学研究科	教授	江幡 孝之	2月27日(水) 15:00～	化学	理学研究科E002講義室	私の研究・教育生活を顧みる
	教授	大川 正典	なし	素粒子理論		
	教授	杉立 徹	なし	クォーク物理学		
	教授	平谷 篤也	なし	原子分子物理学		
医歯薬保健学研究科	教授	高田 隆	2月8日(金) 16:30～	口腔病理学	歯学部A棟6階大講義室	「臨床口腔病理学」:基礎研究から臨床への 発信
	教授	烏帽子田 彰	なし	公衆衛生学		
	教授	片岡 健	3月11日(月) 13:00～	「外科学(乳腺外科)」・「成人看護学(急性期)」	保健学研究棟203室	私が霞キャンパスで学んだこと～乳腺外科から 保健学領域の研究を中心に～
	教授	河本 昌志	3月14日(木) 14:25～	麻酔蘇生学	医学部第5講義室	地域医療と麻酔科医
	教授	菅野 雅元	3月14日(木) 13:30～	免疫学	医学部第5講義室	I-J padadoxと七顛八倒の免疫学、出会った 言葉
	教授	小林 正夫	3月14日(木) 15:20～	小児科学	医学部第5講義室	私の教科書
	教授	末田 泰二郎	3月14日(木) 16:15～	心臓血管外科学	医学部第5講義室	21世紀の心臓病治療
	教授	杉山 勝	3月24日(日) 14:00～14:30	口腔保健学	広島大学医学部広仁会館	口腔保健学専攻と大学院のこれまでの歩み
	教授	新小田 幸一	3月11日(月) 14:00～	運動・動作解析学	保健学研究棟203室	運動・動作の解析—臨床・教育への還元を 考えた30有余年
	教授	松川 寛二	3月11日(月) 15:00～	生理機能学	保健学研究棟203室	大学の良さ・研究所の良さ(自分一人では何 もデキナイ?)
工学研究科	准教授	飯澤 孝司	なし	反応工学		
	准教授	礪本 良則	なし	装置材料工学		
	准教授	岡河 貢	未定			
	教授	佐野 庸治	2月23日(土) 13:00～	化学	学生会館レセプションホール	ゼオライトに魅せられて—多くの仲間に支えら れて—
	教授	篠崎 賢二	2月23日(土) 13:00～	溶接・接合	サタケメモリアルホール	未定
	教授	土田 孝	3月21日(木) 11:00～	地盤工学	サタケメモリアルホール	未定
生物圏科学研究科	教授	佐久川 弘	3月9日(土) 15:00～16:30	環境化学	総合科学研究科第一会議室	環境汚染に係わる大気海洋化学
	教授	山尾 政博	2月8日(金) 14:35～16:05	食料生産管理学	生物圏科学研究科C206	地域社会と食料資源—責任ある生産をめざ して—
国際協力研究科	教授	山本 春行	なし	地盤防災学		
森戸国際高等教育学院	教授	中川 正弘	未定			
ナノデバイス・バイオ融合科学研究所	教授	横山 新	3月1日(金) 15:00～16:00	半導体工学	先端物質科学研究科401N講義室	未定
自然科学研究支援開発センター	教授	山下 一郎	2月1日(金) 16:00～	発生生物学、環境遺伝子工学、 酵母遺伝学	先端物質科学研究科401N	美しい遺伝学の発見—普遍性と独創性
両生類研究センター	教授	矢尾板 芳郎	3月18日(月) 15:00～	発生生物学	理学部E002	未定
情報メディア教育研究センター	教授	入江 治行	なし	応用数理学		



平成 31 年 1 月 25 日

**「放射線災害・医科学研究拠点」が県民公開大学を
福島市で開催します**

広島大学、長崎大学、福島県立医科大学によって平成 28 年 4 月に設置されたネットワーク型拠点「放射線災害・医科学研究拠点」は、平成 31 年 2 月に「第 3 回ふくしま県民公開大学」を福島市で開催します。

第 3 回ふくしま県民公開大学（主管校：福島県立医科大学）

日 時 : 平成 31 年 2 月 23 日（土） 13:00～17:00
場 所 : エルティ ウェディング アンド パーティ エンポリウム
（福島市野田町 1-10-41）

「「受援」から「支援」に視点を変えて復興を考える～私たちは世界に何を伝えられるのか～」をテーマに、フォトジャーナリスト 安田菜津紀氏による基調講演、学生からの提言、パネルディスカッション等を行います。

福島県は東日本大震災後、全国そして世界からの多大な支援を受けて復興の道を歩んでいます。しかし、普遍的な災害復興のあり方を考える上で、支援を受ける立場からだけでは一面的な視点しか得られません。災害の教訓と復興の経験を世界の財産として共有し、世界の持続可能な社会づくりに役立てるという視点で復興のあり方を考えることで、福島の復興を世界に共通する普遍的な財産にするヒントを探ります。

【お問い合わせ先】

広島大学霞地区運営支援部総務グループ
放射線災害・医科学研究拠点本部事務局
TEL: 082-257-5186
FAX: 082-255-8339

第3回 ふくしま県民公開大学

「受援」から「支援」に 視点を变えて復興を考える

～ 私たちは世界に何を伝えられるのか～

福島県は東日本大震災後、全国そして世界からの多大な支援を受けて復興の道を歩んでいます。しかし、普遍的な災害復興のあり方を考える上で、支援を受ける立場からだけでは一面的な視点しか得られません。災害の教訓と復興の経験を世界の財産として共有し、世界の持続可能な社会づくりに役立てるという視点で復興のあり方を考えることで、福島の復興を世界に共通する普遍的な財産にするヒントを探ります。

2019年

日時

2月23日土

13:00～(開場:12:30)

会場

エルティウェディング
アンドパーティエンポリアム

(住所:福島市野田町1丁目10-41、電話:024-535-6188)

主なプログラム

- 主催者挨拶
- 基調講演 **安田菜津紀さん**
「東北と世界、架け橋を築く」
- 学生からの提言
「災害時、災害後の専門家の情報発信(仮)」
(福島県立医科大学医学部生)
- パネルディスカッション

定員 **200名** 申込締切
2019年2月15日金

定員に達した場合は、締切日前に受付を終了させていただきます。

申込方法

お申し込みはホームページより▶
<https://www.fmu.ac.jp/univ/inv/>



「入場無料」

(事前登録制)
中高生・大学生の参加を
お待ちしております



報道番組
「サンデーモーニング」で
活躍の

安田菜津紀さん

【プロフィール】

1987年神奈川県生まれ。Dialogue for People (ダイアログフォーピープル) 所属フォトジャーナリスト。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

問い合わせ先

福島県立医科大学 医療研究推進課 研究推進係
電話:024-547-1794 FAX:024-581-5163

主催
後援
(予定)

放射線災害・医科学研究拠点



公立大学法人
福島県立医科大学



広島大学



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

復興庁、福島県、福島県教育委員会、福島県市長会、福島県町村会、福島県医師会、公益社団法人福島県看護協会、
福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局